

**令和4年3月文化経済部会報告書
「文化と経済の好循環を実現する文化芸術の
『創造的循環』」を受けた取組について**

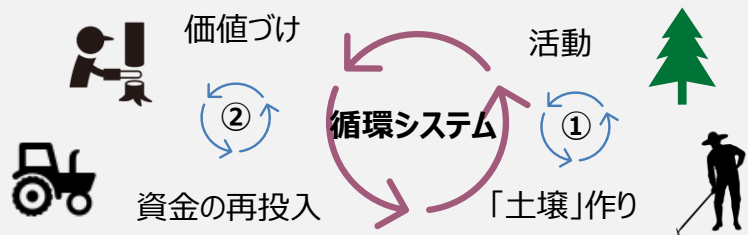
令和4年7月15日
文化庁文化経済・国際課

文化と経済の好循環を実現する文化芸術の「創造的循環」概要（第1期文化経済部会報告書、令和4年3月）

文化と経済の好循環

二つの「創造的循環」によって、資金が確保されるとともに文化芸術活動を促進し、さらに再投入の資金を生み出す「文化と経済の好循環」を実現する。

文化芸術の循環システムの構築 自律的で持続可能な経営



第1の「創造的循環」

文化芸術活動（「樹木」）を生み出す「土壌」を豊かにする循環

- (1) 創造的人材の持続的な育成
- (2) 「土壌」としての地域、場所
- (4) ファンドレイジングと税制措置
- (5) 文化芸術DXの推進
- (6) 文化芸術活動と担い手に関する公的統計・データ整備とアーカイブ

第2の「創造的循環」

文化芸術活動（「樹木」）を「保育」し、価値を高めて行く循環

- (3) マーケティング、ブランディング、プロモーション
- (7) グローバル市場への積極的な関与

創造的循環達成のための「7つの渦」

具体的なアクションプラン案（報告書p.18～）

【文化芸術循環システムの構築】（基盤的施策）

- ① 文化芸術全般を振興する**カウシル機能**（伴走型支援機能）の確立・強化の検討
- ② 文化芸術/ソフトパワー・プロモーション強化に向けた**関係機関の連携強化**

(1)

- ① ワザの学修プログラム、②アーティスト等の就労環境の改善
- ③プロデュース人材の育成

(2)

- ①地域芸術祭等のエコシステムの検証、②歴史的建造物等を地域で持続的に産業として育成する仕組みづくり
- ③中間支援組織等の形成支援、④海外富裕層の誘致

(3)

- ①発信強化、②グローバル（デジタル）マーケティング、③民間活動支援、④海外富裕層の誘致、⑤世界誘客の場づくり、⑥鑑賞者教育

(4)

- ①文化芸術への寄附促進、②寄附マッチング、③コレクターと美術館の関係強化、④動画制作のインセンティブ

(5)

- ①文化ビジネスのグローバル化推進、②新たなテクノロジーへの対応
- ③ブロックチェーン等を活用した美術品の来歴管理

(6)

- ①文化芸術関係統計データの整備、②国内アーカイブの連携
- ③ナショナルコレクションの形成、④公的鑑定評価制度の創設

(7)

- ①トップアーティストの育成、②文化ビジネスのグローバル展開
- ③国立館のパートナーシップ強化、④東アジアワイドでのプロモーション強化

「創造的循環」全般にかかる課題認識

第1の循環

- 文化芸術活動の自律的・持続的な発展のための基盤作りを、どのような取り組みにより実効的に推進していくことができるか。その際、様々な文化芸術領域において実現する必要があるのではないか。

例：自律的な運営促進、寄附促進、カウンスル機能、データ整備等

第2の循環

- 世界の受け手、今の時代の受け手に響く形を目指し、官民連携でグローバルに価値を作っていく体制や取組が必要ではないか。

例：富裕層向けマーケット獲得に向けた体制作り

文化芸術循環システムの構築（基盤的施策）

① 我が国の文化全般を振興するカウシル機能（伴走型支援機能）の確立・強化（望ましい機能の在り方、振興の最適な方法論の検討等）

既存・新規を問わず文化芸術領域の課題を把握・解決し、文化芸術活動が自律的・持続的に発展していく環境作りを、より強力・効率的に行う余地があるのではないか。

（論点例）

- ・文化芸術のエコシステム構築に資するカウシル機能のモデルを明確化。
- ・資金供給を含め総合的振興を伴走型で実施か。
- ・我が国の文化芸術領域全般を広くバランス良く支援し得るカバレッジか。
- ・地域にも立脚して、現場に近いところでの支援を目指すか。

→ワーキンググループでの検討、文化芸術のエコシステム形成
（R5年度の事業実施を検討中）

② 我が国政府における文化芸術/ソフトパワー・プロモーター機能の強化（関係機関の連携強化）

司令塔機能のもとでビジョンを共有し、All-Japanで連携した取り組みを行う必要性があるのではないか。

→（アート分野）国際アートフェア誘致等関係省庁連絡会議の開催
（R4.6）

(1) 創造的人材の持続的な育成

① 文化芸術関係のワザを学修する仕組みの検討

(学生のうちから文化芸術活動の現場と接点を持つ活動の必要性)

② アーティスト等の就労環境の向上、活躍の場作り

フリーランス等、就労立場の弱い環境で活動するアーティスト等の適正な契約関係や安定的なキャリアパスの構築が必要ではないか。

→ (資料4) 文化芸術分野の適正な契約関係構築に向けたガイドライン (検討のまとめ) (案) (文化芸術分野の適正な契約関係構築に向けた検討会議)

③ プロデュース人材の育成

(文化芸術施設における外国人幹部の登用。プロデュース人材の海外派遣や育成等の必要性)

(2) 「土壌」としての地域、場所

① 地域芸術祭等の取り組みについてエコシステムを検証し、形成・活性化に有効な要素を補う方策の検討

地域の芸術祭につき、開催費支援だけではなく、エコシステムという観点から、運営に係る地域の人材雇用など様々に検証・改善することがあるのではないか。

→文化芸術のエコシステム形成（R5年度の事業実施を検討中）

② 歴史的建造物等を芸術文化のために面的に活用し、地域に持続的に産業を育成する仕組みの整備

（文化芸術エコシステム形成事業の活用等）

③ （文化芸術カウンスル機能強化の一環として）歴史的建造物・文化的中間支援組織等を活用して活性化のエコシステムを創る中間支援組織形成支援の検討

（地域の文化財活用型の事業を実施する中間支援組織への支援等）

④ 海外富裕層の誘致・滞在・体験の促進の取組

（具体的なコンテンツの発掘や富裕層向けエージェント等とのネットワーク形成の必要性）

(3) マーケティング、ブランディング、プロモーション

① 発信強化の観点からの取組

(2025年大阪・関西万博の活用や海外メディアとの連携等の必要性)

② 文化芸術カウンスル機能の強化によるグローバルなマーケティングの仕組みへの適応

(NFT、メタバース等の新たな技術への取り組みの必要性)

③ 民間ベースの有力なブランディング活動の促進

(民間事業への支援等の必要性)

④ 海外富裕層の誘致・滞在・体験の促進の取組【再掲】

前掲 ((2)-④参照)

⑤ 世界を惹きつける場作り・機会作り

世界中から人々が集まるような国際的なフェアの誘致が必要ではないか。

→国際的なアートフェアの誘致に向けた関係者間の調整を推進

⑥ 鑑賞者教育の強化の検討

(批評家の育成や資料の整備、鑑賞教育の改善の必要性)

(4) ファンドレイジングと税制措置

①文化芸術への寄附促進パッケージ

②寄附ファンドレイジングの観点から文化芸術施設と企業のマッチングを推進する実証的取組の推進

寄附の出し手である個人・法人には寄附のインセンティブが小さく、受け手である文化芸術組織も寄附の活用に向けた取り組みが充分でないのではないか。
→文化芸術寄附の促進実証（R5年度の事業実施を検討中）

③美術館等とコレクターの関係強化の検討

多くの公立美術館は購入予算不足でコレクションの充実が困難になっている。民間コレクターが収集したコレクションを美術館が継承する仕組みが必要ではないか。

→独立行政法人国立美術館アート・コミュニケーションセンター（仮称）に寄贈受入窓口の設置を予定

④動画分野における制作拠点としての競争力向上のためのインセンティブの検討

（NFT、メタバースへの対応等の必要性）

(5) 文化芸術DXの推進

① デジタル化に伴う世界のコンテンツ消費構造の変化に対応した文化ビジネスのグローバル展開推進

(海外展開、権利処理等、クリエイターエコノミーへの対応の必要性)

② 新たなテクノロジーの潮流（NFT、メタバースを含む仮想空間等）を捉えた、文化芸術振興に資する具体事例の創出や活用策の検討

デジタル技術は新たな表現空間の開拓等、文化芸術コンテンツの付加価値創出のあり方を大きく変えており、デジタルとリアルの関係性構築等に関して実効性を持った形で実現する仕組みづくりが求められる。

→バーチャル日本博（R4本格開始）

③ ブロックチェーン技術を活用した美術品の来歴情報等の蓄積に向けた取組

美術品の取引の透明性が相対的に低く、流通が活性化していないのではないか。

→美術品DX事業（R4開始）

(6)文化芸術活動と担い手に関する公的統計・データ整備とアーカイブ

① 文化芸術関係の統計・データを政策目的に応じて段階的に充実

(従事者、文化資源の規模、社会的インパクト等基礎データの充実)

② 国内アーカイブの連携及び「国立映画アーカイブ」の強化

③ ナショナルコレクションの形成推進

アートの構造や環境、範囲が広がる中で、それに対応した支援やアーカイブ等を検討する必要があるのではないか。

→独立行政法人国立美術館の対象範囲の拡大 (R4)

④ (アート市場の活性化を図るため) 美術品価格の信頼性を高める市場インフラとして公的な鑑定評価制度の創設

アート市場の活性化を進めていくうえで、アートの価格が客観的に分かりにくく、市場参加者が増えにくい。また、信頼性の高い時価評価の仕組みを通じた「ナショナルアセット」の把握が必要。

→基盤・制度WGに公的鑑定評価に関する作業部会を設置予定 (R4)

(7)グローバル市場への積極的な関与

①グローバルな「トップレベルのアーティスト等育成プラットフォーム」事業の確立・実施

コンクール等の人材発掘機能やグローバルなキャリアパスの「見える化」、海外研修事業の有効性向上推進等、各機関と連携した取り組みが必要ではないか。
→**トップアーティストの発掘・国際的活動支援事業（R4）**

②文化関連ビジネスのグローバル展開推進事業（CBXプロジェクトの推進）

日本の文化ビジネスの海外発信の支援スキームが充分ではないのではないかと。
→**文化ビジネス推進事業（通称CBX事業）（R4開始）**
→**活字文化等の海外発信の促進（R5年度の事業実施を検討中）**

③国立文化施設における国外文化施設とのパートナーシップ強化と国際的な認知度の向上（海外の国立劇場、博物館等との連携推進、国際的な情報発信の強化、外国人材の幹部登用等）

（関連独法との調整等）

④世界展開を見据えた東アジアワイドでの芸術発信・売込み強化方策の検討

（アジアから世界への訴求等）